



編集／東濃厚生病院広報委員会

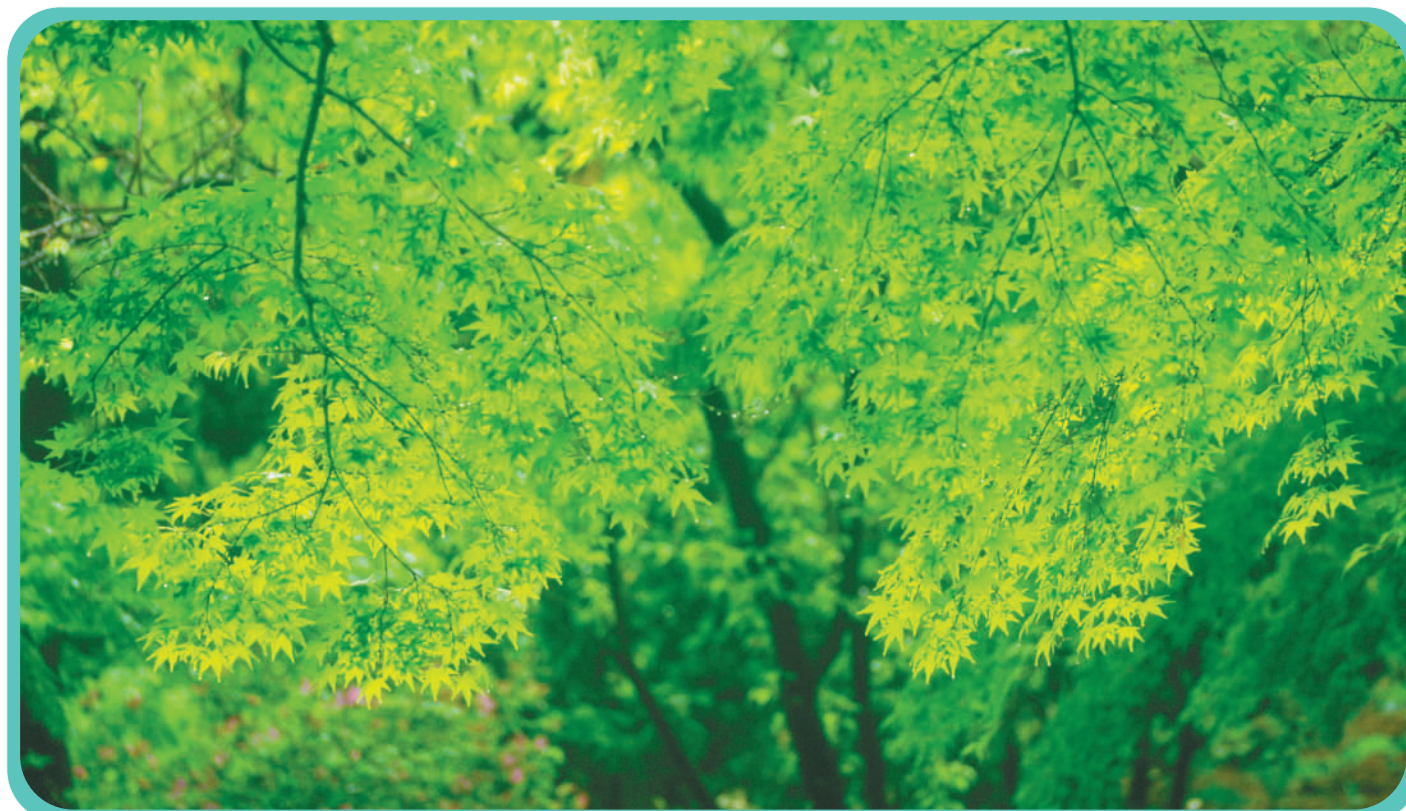
理念

**歩みいる者に
やすらぎを
去り行く人に
幸せを**

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します。

行動目標

1. 私たちは日々研鑽に励み、患者さんの立場にたった質の高い医療の提供に努めます。
2. 全職員が患者さんの窓口となり、真心と笑顔で患者さんに接します。
3. 患者さんの言葉を最後まで聴き、患者さんが理解できるよう分かりやすい言葉で説明します。



ご挨拶

院長 平石 孝



四月の新年度となつて、今年も二十七名の新入職員を迎えることになった。多くの医療機関があるなか、東濃厚生病院を選んだくれたことに感謝すると共に、今後は一日も早く慣れて大きな戦力となつて頂きたい。

新年度といえは、やはり桜である。桜とくれば花見であり宴会を思い浮かべる。新人社員の恒例の初仕事は花見の場所取りと決まっている会社もありやと思われるほどである。桜の開花予報が発表され、日本地図のうえに各地の開花日を記した桜前線がテレビにでると落ち着かなくなる人も多い。花見はいつ頃から始まったのであろうか。平安貴族の優雅な遊びとして始まり、その後、武士や財力のある町人に広まり、江戸時代には一般庶民にも娯楽として広く受け入れられ、落語の「長屋の花見」をはじめ「花見の仇討ち」や「花見酒」にネタとして取り上げられている。田中秀明氏によると、日本での花見は初期の頃は桜ではなく梅であった。梅は中国からやって来た花樹であり、遣唐使などによつてもたらされた中国文化に思いをはせ、詩を詠んだのであろう。その後西暦八九四年には遣唐使が廃止されたことにより、平安時代になると外国への関心が薄れると共に外来種である梅から日本固有種の桜に関心が移つていったとのことである。

広辞苑によれば「サクラ」とは客のふりを

して他の客の購買心をそそる者。また、まわし者の意とある。黒田勝弘氏によると韓国語にも「サクラ」が「まわし者」とか「手先」とかいった意味に使われ、新聞などにもよく登場する。ひよつとすると、この「サクラ」こそは韓国社会に最も定着した日本語かもしれないとのことである。

【閑話休題】忙しいを連発する人は本当に忙しい人？“の記事を先日眼にした。

「忙しい」は便利な言葉である。何となれば、「忙しい」と言えば、仕事を体よく断る口実に使えたり、断つてもある程度許される風潮がある。確かに「忙しい」のは事実かもしれない。しかし「忙しい」が口癖の人は単に要領が悪く、段取りの良くないだけの人もいる。急な仕事が入った場合、本当に仕事が多く忙しい人と、仕事の少ない人のどちらに頼むだろうか。忙しい人に頼んだ方が早く巧く処理してくれるとは、以前から言われることである。仕事を依頼されるのは頼りにされている証拠である。「忙しい」とか「なぜ私だけが」と思わず、面倒がらずに挑戦してゆけば、「案ずるより産むが易い」で、何とか完遂して了解事が殆どである。医療機関には細かくミスの許されない作業が多いのは確かである。しかし多忙のなかにも、時間を有効に使い、段取りを考えて確り仕事をこなしてゆけば、上司や同僚のみならず、社会からも信頼される職員になつてゆくのではないだろうか。

ご挨拶

事務局長 白井 浩美



このたびの人事異動によりまして、四月より事務局長を拝命いたしました白井と申します。

東濃の地に赴任して半年、ようやく少しずつではありますが、地域のこと病院のことが分かってきたところでの大役で、戸惑いもあり不安もありますが、皆様方のご協力によりまして、微力ではありますが頑張つていきたいと思つておりますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

さて、世の中右を見ても左を見ても暗いニュースばかりで、なかなか楽しい話は聞えてきません。医療界もまた、日本経済の失速に翻弄されるように、病院を取巻く環境は大きく変貌し、診療科の休止、病院の統合。更には、病院の廃止。地方医療の崩壊です。国が求める日本の医療像とはいったい何なのか。

また、元来、日本の保険制度は、国民皆保険制度と呼ばれるように、国がその土台を担つて、皆が健康で暮らせることを願つてできた制度であつたはずのものが、今では、制度改正が繰り返され、理解しがたい制度になりつつあるように思えるのは私だけでしょうか。今後の医療制度に不安を感じずにはられません。

当院はご承知のとおり、昭和十三年五月に農協の組合員及びそのご家族の方々の健康維持を目的として創立された病院です。今日では、農協組合員の方々のみならず、皆様方からの一方ならぬご支援をいただきまして、地域の病院としての役目を果たしているものと思つております。

病院に課せられた幾多の課題はありますが、これからも、皆様と力を合わせ病院運営に携わつて行きたいと考えておりますので、変わらぬご支援をお願いし就任の挨拶とさせていただきます。

異動挨拶

外科医長 大谷 聡



この四月より、外科の一員となりました大谷 聡と申します。慣れない通勤ラッシュを抜けて、土岐川沿いの桜が満開に咲き誇るなか、緊張して赴任初日を迎えたのも束の間、あつと言う間に一ヶ月が経過しました。おかげ様でなんとか生活環境の変化に順応してきたのか、気分的には小春日和のような、春うららかな日々を送っております。

藤田保健衛生大学を卒業し、国立名古屋病院（現名古屋医療センター）で五年間勤務したのち、同じ岐阜県厚生連である中濃厚生病院で三年間お世話になりました。その後、名古屋大学第二外科（正式には名古屋大学大学院医学系研究科機能構築医学専攻消化器外科学講座といえます）の大学院生として四年間過ごして参りました。ごらんの通り履歴書を作成するだけでした。大学では肝胆膵領域のグループに所属し、主に膵がんや肝がんの手術を中心とした臨床や研究に携わっておりました。新規のデバイスや化学療法などにより日進月歩で変化していく癌治療を感じる事ができました。近年、社会的ニーズが政治的要因だかよく知りませんが、各学会において専門医制度が次々と乱立しております。日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、がん治療認定医などを取得しております。足の裏のメシ粒とはよくいったものですが、学会費の支払いだけでもばかになりません。

臨床現場の最前線にもどり、心機一転、微力ではございますが自分の専門性を生かしつつ、広い視野をもって患者さんと真つ向かい向き合える General surgeonを目指して、がんばりたいと思っております。

異動挨拶

事務次長兼総務課長 西脇弘司



この四月の人事異動により、総務課でお世話になることとなりました西脇と申します。着任して、二週間程が経ちましたが、この東濃厚生病院に勤務することも、瑞浪の地に住むことも初めてのことであり、院内をウロウロ、街中をキョロキョロと、毎日右往左往しているような状況であります。

ここに着任する前は、揖斐県中津川町で勤務して、病院長として四病院長となりましたが、やはり新天地での勤務は緊張と驚きが連続し、さながら毎日が光陰のように過ぎていきます。

実を申せば、私の出身は岐阜県の南西部に位置する養老町です。実家から西を見れば養老山脈が眼前に迫り、東を向けば濃尾平野が開けており、季節によっては鹿や猿の群れなどが現れることもある自然に恵まれたところです。特に、春には私の大好きな「桜」が山々を彩り、山々の下方から開花とともに、桜前線が上昇していくような景色と香は素晴らしいものがあります。

私が担当する業務は、総務を中心とする管理事務全般であり、どちらかというと縁の下で病院を支える立場になります。やはり気になるのは毎日のように飛び込んでくる医療を取り巻く環境の厳しい現状です。医師不足・看護師不足による病院の閉鎖等もそうですし、幾度にも亘る診療報酬のマイナスイノベーションの影響を受け続けている病院経営もそうです。

東濃厚生病院にお世話になるにあたって、早くこの瑞浪の地に慣れ親しみ、東濃厚生病院の一員として皆さんに認めていただけることが大切であり、その中で東濃厚生病院の職員として出来ることを見出せばいいなと考えております。簡単ではありますが、就任の挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願い致します。

異動挨拶

臨床検査技師長 松下次用



四月一日の辞令により二年間の単身赴任を終え、赴任先の揖斐県中津川町から戻ってきました。わずか二年間の空白とはいえ、皆様方の懐かしい顔を拝見しますと、ふるさとに帰ってきたことを実感いたしました。五十歳を過ぎてからの異動だったので、生活面など大変なこともありましたが、二年間は本当に貴重な経験をさせていただきました。

私の出身は、土岐市ですが、就職後の殆どの期間は、瑞浪で暮らしております。

さて最近、食品表示の偽装や食品そのものの安全性を問われる事件が、相変わらず、あつと絶ちません。それに対する国民の目は、厳しいものがあります。

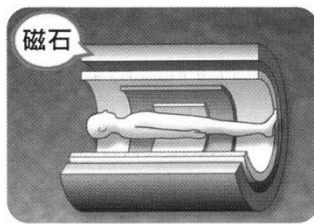
私が働く職場である臨床検査分野においても、異型輸血、採血や病理・細胞診での患者検体の取り違いなど、また生理検査部門では、超音波検査時にちよつと目を離した隙に患者がベッドの上で寝返りしてバランスを崩し転落しそうになったり、負荷心電図検査中によりめいてあわや転倒しそうになった事例など、臨床検査技師が、日常業務の中でヒヤリとさせられる場面がたびたびあります。

これらは、医療の安全性確保の面からもあつてはならないインシデントで、医療に対する信頼性が揺らぎます。

今後、ますます臨床検査をとりまく環境が厳しくなっていく中で、医療技術の向上に努力することは当然のこととして、皆様方から必要とされる職場を目指して頑張っていきたいと思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。

MRI装置が更新されました

放射線科 主任放射線技師 奥村 功



MRI装置（磁気共鳴断層撮影装置）は強力な磁石と電波を利用して体内の様子をあらゆる方向から画像化する装置です。装置本体が磁石のトンネルのような構造になっており、その中に体を入れて検査を行います。X線撮影やCT撮影とは違い放射線被曝が無く、また、軟部組織の撮像に優れている利点があります。従来は頭部や脊椎、関節、靱帯などの検査に多く利用されてきました。技術の進歩により画質の向上や高分

解能撮像および新しい撮像技術の普及は目覚ましく、MRI診断の適応は脳神経領域や整形領域に留まらず、心血管、消化器、泌尿器、婦人科領域など全身・各科に広まっています。また、これまでの形態診断、存在診断から機能診断をも可能となつてきています。

旧MRI装置は、最先端・高画質な装置として一九九七年十二月に導入、昭和病院から東濃厚生病院へと移設され、CT装置、超音波装置と並んで当院放射線科の主要機器として稼働率も高く十一年間利用されてまいりました。

画質も比較的良好であり、まだまだ使用は可能ではありましたが、経年劣化もあり、また、最新の撮影技術に対応するために、東芝メディカルシステムズ社製『Vantage Power by Atlas（バンテージ・パワードバイ・アトラス）』という装置に更新されました。



装置外観

更新工事のため、二ヶ月もの間検査が出来ず患者様にはご迷惑をお掛け致しましたが、三月より新装置が稼働を始めたので、装置の概要と新たに可能となった主な特色をご紹介します。

一、新たな特色・機能

①画像が鮮明になりました

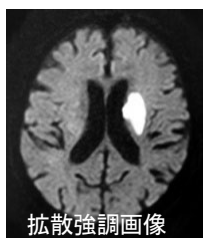
MRIの検出器にあたる受信コイルは、受信部のコイル素子の数が多いほど画質は良くなりますが、情報量が多くなり撮影や計算時間が長くなる欠点がありました。新装置は通常8〜16個（最大32個）の素子を有するコイルを使用し、パラレル・イメージング法という高速撮像法を併用することにより、比較的短い時間で鮮明な画像が得られます。従来と同程度の時間でより高画質な検査が可能となりました。

②広い領域の検査が効率良く行えます

従来は検査部位により頭部、頸部、脊椎、腹部用とそれぞれ受信コイルを交換していましたが、新装置では頭部から腹部までコイルの組み合わせにより広い範囲に装着が可能であり、コイル交換のために途中で検査を中断することなく、連続して全脊椎や下肢全長などの広い範囲の検査が効率良く行え、検査時間が短縮されます。

③急性期脳梗塞の検査ができます

従来は可能というだけであつた拡散強調画像が歪み無く鮮明となりました。CTや従来のMRI撮像法では描出できなかった超急性期の脳梗塞の変化を鮮明に捉えられ、早期治療につなげます。



拡散強調画像



コイルを装着した様子

④造影剤を使わないで血管撮影ができます

MRIには、造影剤を使わないで血管や胆管が撮影できるという利点があります。新装置ではMRA(血管撮影)やMRCP(胆管膵管撮影)の画像がより鮮明となりました。

また、新しい撮像法の一つとして動脈と静脈を分離するなどの選択的な非造影MRAが可能となりました。

限られていた撮影可能部位も、ほぼ全身に広がり、下肢の動静脈や肝臓・腎臓の血管なども撮影できるようになり、造影剤を使えない患者様に対しても血管画像が得られ、より安全に検査が行えます。

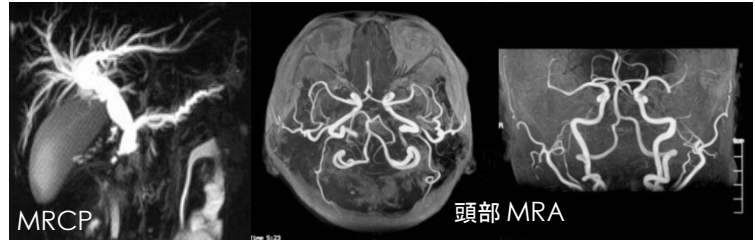


⑤腹部の息止め撮影が短くなりました

高感度コイルを用いた高速撮像法により、比較的短い息止め時間で撮像できるようになりました。色々な種類の撮像法や方向を変えて撮像しますので、何度も息止めを行い、自然な呼吸に合わせた呼吸同期撮像と併用して検査を行います。

⑥心臓の検査ができるようになりました

動きにより画像がブレてしまい、心臓のように動く部位の撮像はできませんでしたが、心臓の動きに合わせて撮像する心電図同期撮影により可能となりました。マルチスライスCTや心臓カテーテル検査と併用し、心臓の筋肉の動きや血管の状態など、より精度の高い診断が行えます。



⑦動きが制御できない方も検査は可能です

全ての部位での撮像は無理ですが、動きを自制できない場合や、息が止められない場合などに、動きの補正を行い撮像することができま

二、苦痛を軽減する構造・機能

検査を受けて頂く患者様の苦痛を軽減する構造・機能を装備しています。

①撮影時の騒音が小さくなりました

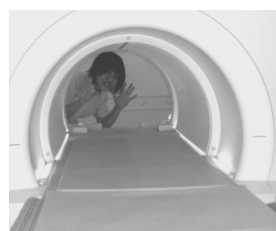
撮影時に発生する音が非常に大きく苦痛でもありましたが、装置内部に音を伝えない真空封入構造が用いられ、不快であった騒音が、BGMが聞ける程に小さく低減されました。

②装置本体の筒状のトンネル部分が短くなりました

圧迫感のあるトンネル部分が1.5mと短くなり、内部から外が見られる程度の長さになりました。

また、内部照明も比較的明るくなり、狭い所が苦手な方の不安も軽減されています。

以上のような特徴が加わり、頭部や脊椎、関節、腹部、乳房など今まで可能であった検査の他に新たな検査・撮像法が可能となりました。



X線撮影やマルチスライスCT撮影と比べ、新装置の撮像時間はまだまだ長く、通常20〜40分程掛かります。MRI検査には、動きに弱い・金属が邪魔になるなど多くの制約があります。患者様には安心して検査を受けて頂けますよう説明、努力しておりますが、不明なところや不安なことがありましたら、放射線科スタッフにご遠慮なくお尋ねください。